

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 日野小学校の結果について

仲秋の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、令和 7 年 4 月 1 7 日に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果が集計され、各校に届きましたので、日野小学校の調査結果概要をお知らせします。

【教科別学習状況調査結果】

◎国語 平均正答率（％）

	全体	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
		言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
日野小学校	61. 0	65. 8	64. 5	63. 8	52. 7
神奈川県平均	6 6. 0	7 2. 9	6 6. 5	6 9. 9	5 7. 5
全国平均	6 6. 8	7 4. 5	6 6. 3	6 9. 5	5 7. 5

◎算数 平均正答率（％）

	全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
日野小学校	52. 0	59. 2	45. 1	46. 7	56. 5	57. 8
神奈川県平均	5 9. 0	6 3. 5	5 5. 8	5 5. 1	5 9. 9	6 3. 2
全国平均	5 8. 0	6 2. 3	5 6. 2	5 4. 8	5 7. 5	6 2. 6

◎理科 平均正答率（％）

	全体	エネルギー	粒子	生命	地球
日野小学校	54. 0	41. 8	50. 7	49. 5	63. 4
神奈川県平均	5 7. 0	4 6. 6	5 1. 7	5 1. 2	6 6. 6
全国平均	5 7. 1	4 6. 7	5 1. 4	5 2. 0	6 6. 7

【概要と各教科及び問題における日野小学校の学習状況の特徴】

平均正答率でみると、3 教科とも全国及び神奈川県平均よりも低い結果です。正答数分布を見ると、正答数が高い児童の割合は、全国及び神奈川県平均と同程度ですが、低い児童の割合が全国及び神奈川県平均よりも高い傾向にあることから、一人ひとりの児童における学びの積み重なるの差が大きく、二極化が進んでいるといえます。

出題形式別で見ると、選択問題に関しては、全国及び神奈川県平均と同程度、問題によっては正答率が高い傾向にあります。しかしながら、漢字や計算結果、理由や自分の考えを書くなどの記述問題に関しては、全国及び神奈川県平均よりも正答率が 1 0 % 以上低い結果でした。また、各問題に対する無解答率は、全国及び神奈川県平均の約 2 倍以上と非常に高い傾向にあります。このことから、自分で考えを導き出すことが苦手であり、分からない問題に関しては、問題に対峙すること自体を諦めてしまう傾向が高いといえます。

さらに、各教科の学習状況について分析しました。その結果、国語では、「漢字や言葉を意味とともに理解する力」「文意を理解し、複数の資料を基に理由や自分の考えを具体的に詳しく書く力」、算数では、「資料や文章から問題を解くために必要な情報を選択する力」「調査のために必要な資料を適切に選択して、読み取る力」、理科では、「課題に対する実験の条件を考える力」「実験結果をもとに考察する力」の育成が課題として挙げられました。

【その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)～児童質問紙調査結果】

○主な質問に対する回答状況(そう思う・どちらかと言えばそう思うと答えた児童の割合)(%)

質問項目	日野小学校	神奈川県	全国
自分にはよいところがあると思いますか	87.5	87.1	86.9
友達関係に満足していますか	95.9	91.9	91.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	89.6	96.3	96.4
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	89.6	82.6	81.3
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	79.2	85.1	84.9
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	83.3	92.0	91.9
学校の授業以外に、普段(月曜日～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(1時間以上と答えた児童の割合)	43.7	55.2	54.0

【各設問に対する回答状況から見える日野小学校の特徴】

本校の学校教育目標「自分らしく輝く」に関連する自己有用感や社会性に関する設問では、どの項目も85%以上と高い結果がでました。日々の学びや活動を通して、互いに認め合ったり、達成感を味わったりする機会を意図的に設けて教育活動を行った結果であると考えます。

「ともに学びあい(主体的、協働的な学び)」に関連する設問では、どの項目も10%程度低い結果でした。日野小学校の児童の特徴として、与えられたことは素直に取り組むことができますが、自分で考え学びを作り出す力には課題があります。本校では、以前より児童が自ら進んで課題に取り組む姿や必要感のある友達との学び合いの姿が見られるように授業改善に努めています。自らの学びを分析し、よくできているところと足りないところを理解し、進んで学びに向かえるよう支援を続けていきます。

家庭での学習習慣に関しても全国及び神奈川県平均より10%程度低い結果が出ました。さらに詳しく分析すると、家庭学習習慣が身につけている児童とそうでない児童の二極化が見られます。この結果と主体的に学ぶ力やできるまで粘り強く取り組む力とは、関係があると思われます。低学年のうちから、家庭での学習習慣をつけるとともに、画一的な宿題から児童一人ひとりが自分の課題や目標に応じで行う家庭学習へと、家庭とも連携を取りながら進めていきたいと考えています。